

ジュネーブ便り

第11回

インダストリアル本部造船・船舶解撤
ICT電機・電子部門担当部長

松崎 寛

スイスの難民・移民問題

拡大する外国人排他主義に「ノン！」

2015年9月、シリア難民の3歳男児が溺死し浜辺で見つかり、その報道写真に世界は衝撃を受けました。シリアおよび周辺国からの難民流入は止まる様子はなく、主な受け入れ先であるヨーロッパ諸国ではい

ま、難民・移民問題が最大の政治・社会問題となっています。そしてこの問題は右派保守政党の躍進、移民や外国人排他主義の拡大、国境閉鎖などへと飛び火し、ヨーロッパは緊迫した情勢に直面しています。ここスイスでも例外ではなく、ヨーロッパのなかでも厳しいといわれる移民・外国人制限政策がさらに強まる傾向が見られます。このよう状況のなか、右派の国民党は「外国人犯罪者の国外追放強化イニシアチブ」を議会に提案し、賛否が真っ二つに割れるな

か、2月28日にその是非を問う同法案の国民投票が行われました。本稿では、スイスにおける難民・移民・外国人問題と同法案の国民投票の結果についてスポットをあててみたいと思います。

世界の122人に1人は難民

スイスは難民送還数でトップ

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によると、2014年の難民や難民申請者の数は第2次世界大戦後最大の約6千万人。シリア内戦が深刻化して以降の5年間で難民数は4倍に膨れ上がり、世界中で122人に1人が難民、避難民、あるいは庇護申請者になったそうです。主な難民受け入れ先であるヨーロッパでは、欧州連合（EU）と欧州自由貿易

連合（EFTA）：スイス、ノルウェー、リヒテンシュタイン、アイスランド）を合わせて、難民申請だけでも昨年一年間に100万件以上となりました。コンボ紛争など、1990年代の地域紛争でヨーロッパに流入した難民の数は約70万人。今回はそれをはるかに上回る記録的な数の難民申請希望者がなだれ込んでいることとなります。

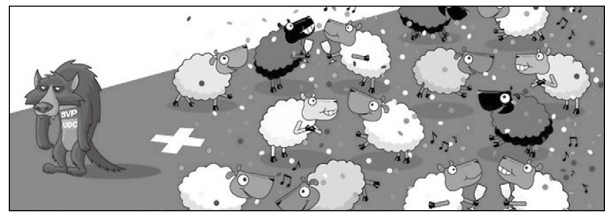
さてスイスでの難民受入状況はどうなっているのでしょうか。1999年のコンボ紛争で受け入れた難民数は4万4千人（筆者の息子の同級生にもコンボ難民がいます）。しかし、今回のシリア難民のケースでは、コンボ紛争時をはるかに下回る難民数しか受け入れていないようです。過去6年間にスイスは、難民申請者全体の15%にあたる1万9517人を他国に送還した

ようです。難民の主な最終目的地であるドイツ（3%、1万8331人）やスウェーデン（4%、9946人）が他国へ送還した難民数と比較すると遥かに多い割合です。スイスは2008年12月ダブリン条約（難民申請希望者が最初に入った国に、難民の登録、認定審査を義務付けるもの）に加盟し、同条約を適用し最も多くの難民申請希望者を他国に送り返した国だといわれています。

難民・移民・外国人の制限を強化するスイス

それでも外国人排他主義には「ノン！」

ヨーロッパにおける難民危機はスイスにも一大論争を巻き起こしました。昨年の総選挙における選挙運動の論点は、難民問題から始まり、



(写真1) 国民党のキャンペーンポスター(上)

(写真2) UNIAのキャンペーン画像(下)

移民・外国人問題を巻き込みながら外国人排他主義的な政策の是非にまで発展していききました。そうしたなか、2月28日、右派・国民党が提案した「外国人犯罪者の国外追放強化イニシアチブ」について国民投票が行われました。この法案は軽犯罪を犯した外国人の国外追放を容易に可能とするもので、事実上、外国人排他主義をアピールするものであると見られていました。ある左派の新聞は「ここ数年間で最も狂氣的な、最も興奮した、最も重要なキャンペーンが投票前に繰り広げられた。」と国民党を批判し、実際外国人である筆者の自

宅ポストにも国民党のキャンペーンポスターが投函されていました。(写真1)「我々の息子と娘を守れ!外国人犯罪追放にイエスを!」と書かれたそのポスターには、白いヒツジが黒いヒツジをスイスから追い出す様子が描かれており、外国人排他主義を連想させる露骨な作りとなっています。さて2月28日の国民投票、結果は41%が賛成、59%が反対となり、右派・国民党が提案した「外国人犯罪者の国外追放強化イニシアチブ」は否決され、多くのスイス国民、そして

スイス在住者の25%を占めるスイスの国籍を持たない外国人移民・外国人はその結果に安堵しました。スイスの情報サイトである「SWISS INFO」(<http://www.swissinfo.ch/jpn>)によると「この力強い『ノー』で、一番大切なことは、同イニシアチブが目論んだ試みが失敗したということだ。その試みとは、潜在的に外国人嫌いであるという一つのアイデンティティを、スイスに持たせようとしたことだ。しかし、それはスイスには必要ない」とドイツ語圏の大衆紙ブリックの記事や「市民は、政治的な華やかさに気をとられるというより、冷静さを選択した。そもそも、キャンペーンの間中、国民党が作り上げた『うそ』というより『事実の操作』や人種差別的な情報に、国民はうんざりしたのだ」とフランス語圏の記事を紹介しています。

実は国民投票前、労働組合をはじめ多くの党派・左派メディアは、国民党と「外国人犯罪者の国外追放強化イニシアチブ」に「ノー!」という逆キャンペーンを繰り広げていました。投票の結果をうけ、インダストリアルオール加盟組合であるスイスUNA(A(私も組合員である))は、同法案否決後、(写真2)様々な色をしているヒツジ達が仲良く共存するイメージ

画像を配信し、あらゆる人種・国籍・民族の連帯の重要性を強調しました。しかし、今回の法案は否決されましたが、スイスはヨーロッパのなかで、最も厳しい外国人政策の法律を施行している国の一つです。連邦議会の多数派は、国民党を含む右派政党が占めています。国民党は難民に関する法律を厳しくする次のイニシアチブを準備しているといわれています。スイスに住んでいるとヨーロッパが抱える移民・難民問題の根の深さを日々実感しています。



松崎 寛 まつざき かん

1998年金属労協に入局。国際局、政策局で主任として産業政策、環境政策の立案をはじめ海外労働紛争防止ツールの作成などに活躍。2010年9月1日から家族同伴でIMF本部(現インダストリアル)に赴任。現在の担当役職は、産業政策・多国籍企業政策グループの造船・船舶解撤/ICT電機・電子部門担当部長。